

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3393800036 | | |
| 法人名 | 株式会社セラヴィ | | |
| 事業所名 | グループホーム咲くら | | |
| 所在地 | 岡山県久米郡美咲町小原1681-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年10月3日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・「5Sの心」を基本とし、入居者の「安心・安全」をモットーに支援をしている。 ・生活面で清潔・清掃の充実に加えて、一人一人の生活状況を把握したきめ細かな支援を行う。 ・家族との連携とコミュニケーションで入居者との信頼関係を深める。 ・入居者に対し強制・強要せず、ありのままを受け入れ楽しみながら自立した生活が送れるよう支援している。 |
|---|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaisokensaku.in/33/index.php?action=kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JivvosvoCd=3393800036-00&PrefCd=33&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社ハートバード | | |
| 所在地 | 岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室 | | |
| 訪問調査日 | 平成24年10月29日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>事業所内はとにかくきれいで、隅々まで整理整頓と清掃が行き届いている。「5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)の心」を中核に据えた事業所の方針が見事に体现されている。掃除のチェックリストさえないのに、これだけの状態が維持できているのは、「5Sの心を持ち合わせていれば、汚れた個所に自ずと気づくから」という代表者の言葉どおりである。その気づきの力は、利用者の身体や精神状態のわずかな変化も見逃さない、確かな目を養っている。開設2年目を迎え、職員も業務に慣れてきたのか、より笑顔が増え、はつらつと働き、チームワークも良い。家族からもそうした様子に満足する声が多くあがっている。介護計画とモニタリングも昨年より大きく進化し、日々のケアに実践されている。</p> <p>これらの成果なのか、昨年以上に、利用者の生き生きとした表情や活発な動作が増えていた。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|--|----|---|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設内に掲示してある基本理念を基に、職員会議及びミーティングにおいてスタッフ間で話し合い、利用者個々に応じて安心・安全な生活が送れるよう支援している。 | 「5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)の心」が職員に浸透しているのは、隅々まで清掃が行き届いた事業所を見れば、一目瞭然である。明確であるがゆえに、賛同できる職員のみが定着し、以前にも増して、事業所の特色が明確になっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の自治会・氏子に加入。 地域の催しに参加したり、施設内の行事にボランティアの方に参加して頂き交流を図っている。 | 代表者が地元で事業所を開設したので地域とのつながりは深い。地域の秋祭りで御旅所を敷地内に設け、祭礼の列が休みながら利用者と交流した。近所の小学校の運動会へは利用者全員で応援に行った。地域のボランティアも来訪する。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の介護者の会に参加し、情報交換する中で必要に応じてアドバイスしている。 今後は地域で認知症介護の相談窓口として、話し合い支援していきたいと思っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回開催し地域の代表者の方々、利用者及び家族の代表者からの率直な意見を伺い疑問点が出た場合、理解して頂けるよう話し合い助言を頂いている。 | 運営推進会議を通じて、事業所を知ってもらうことで、参加者から「信頼できる所」と評価された。また、家族からの質問に対し、町の職員としての見地から補足が加えられる等、地域の多彩な顔ぶれにより、会議の長所を活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 入退所状況、事故発生等の報告、及び町からの伝達事項(感染予防、等)を通して、問題等あればその都度報告・相談して確認や指導を受けている。また、町主催の研修にも積極的に参加している。 | 町の職員が毎回運営推進会議に参加する。新設するユニットや、支援が困難な利用者の相談で力になってくれるし、様々な情報が提供される。地域包括支援センター主催の介護講座に年間を通じて参加した。センターからは利用者の紹介も多い。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束ゼロハンドブックを基にどのような事が身体拘束になるかを説明する勉強会をしている。 スタッフから出た意見を聞き身体拘束しないようにするには、どのように支援していけばいいか話し合いをしている。 | 身体拘束は見受けられない。職員は研修や勉強会などでどんなことが拘束にあたるか理解している。あからさまな拘束以外に、忙しいフリをしたり、「ちょっと待って」「後で」などの言葉も拘束になることを知り、気をつけている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者が虐待防止の勉強会をし、スタッフに指導する機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護、成年後見人制度に関する資料を職員に配布している。今後はそれぞれの研修に職員を参加させる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に利用者、家族(身元引受人等)を含めて契約内容(利用料等)を説明し、納得いただいた上で契約書に署名押印していただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入所時に苦情解決体制及び、相談窓口の説明と、意見箱(受付方法)等の設置状況を説明している。入居者とは日々の会話の中から聞きとり、家族とは面会時や支援計画の説明時に話しを聞いている。 | 報告・連絡・相談の不徹底で、新人職員の親切心による行動が裏目に出たことから、「報連相」の強化を図る共に、管理者が関係者に謝罪した。また、家族の意見を取り入れ、今後は午後の余暇時間にリハビリに取り組み予定である。家族には早めの連絡で、信頼と連携を築けるようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議やミーティングで意見・要望を聴き、スタッフ全員で解決策を話し合っている。 必要に応じ個別面談にて意見・要望を聴く機会を設けている。 | 夜勤の多かった管理者の日勤が増え、職員は相談や意見を言いやすくなったと感じている。まずはやってみようかという意識で対応する管理者に、職員は信頼を寄せ、職員間のチームワークは良い。職員の入れ替わりも少なくなり、休憩時間などの労働環境が少しずつ改善されてきた。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 正社員化を推進し、年齢・男女を問わずスタッフの勤務態度や実績等を評価し、昇給・昇格・賞与に反映させている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | OJTの実践により、日々その場で指導教育し、個々のレベルに合わせて各機関の研修に参加させ質の向上ができるよう取り組んでいる。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他施設に研修実習・見学を受け入れてもらい、交流の機会を作っている。 他施設から見学に来てもらい感じた事を聴きサービスの向上ができるよう努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前に本人さんが利用している施設を訪問し、本人さんの様子やスタッフから情報を収集し環境の変化に対応できるよう配慮している。入所時に本人と寄り添う中で出た言葉をサービス計画に反映させるようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 契約までに面談、訪問等により、家族の方の思いを共有し要望等を聴き家族の意向に添ったサービスが提供できるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | アセスメント等で、環境が変わることに対して、本人に起こる変化等、家族と共に受け入れ一緒に考えていけるよう支援している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者の生活してこられた環境等を考慮し、ありのままの姿を受け入れ、共に生活していけるパートナーとしての雰囲気作りを心がけている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者に対して気付き等があれば、家族への密な電話連絡や、来所時に話し合う機会を作り共に考えていけるようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 生活歴のアセスメントや会話の中で意図して取り上げるよう心掛けている。 地元周辺や馴染みの場所へのドライブ、地域行事への参加をしている。 | 利用者のお盆の墓参りを職員が付き添い、本人と家族から感謝された。その人の生い立ち等を「バックグラウンド」として文書化し、馴染みの把握に努めている。例えば役場への用事の際に、昔、役場と関係が深かった利用者を同行させたら、しっかりと挨拶をし、生き生きした表情に変わった。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人一人の状態に合わせ平等に声掛けし、皆で助け合いながら生活していけるような関係の構築に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院等で契約が終了しても、支援に満足していたか大切にしているため、その後の本人及び家族との繋がりを保つようしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の思いや要望に耳を傾け、ありのままを受け入れながら、その人らしく生活できるよう支援している。 | 利用者との会話で「どうしたいか」の思いを捉えている。最初は車椅子だった人が「家に帰りたい」とのことで「歩く練習をしませんか」と声をかけたら、今では杖をつけて歩けるようになった。利用者どうしの競争意識も互いに良い刺激になっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前に家族の方に生活歴を記入して頂き、趣味や呼び名、嫌いな事等を把握するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人一人の生活スタイルに合わせ個別に対応し機能が現状維持できるような支援に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画を軸とし、一人一人に合わせチェック項目を設け、スタッフ全員が気付いた事を記入し介護計画に反映できるようにしている。 | 昨年から大幅に改善され、進歩している。計画は具体的かつわかりやすくなった。「実施モニタリング表」を新設し、ケアプランの内容ごとに実施状況を毎日書き込んでいる。職員がプランを明確に意識して対応することで、より多くの視点から介護計画を検討できるようになった。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の中で統一したケアができるよう、申し送りノートやモニタリングチェックを活用し、必要な支援ができるように努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の希望や家族の要望に応じて、外部からのサービスも随時取り入れている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ホーム横の理髪店の利用、地区の消防団や消防署参加による夜間避難訓練の実施、ボランティア訪問、地域小学校の運動会見学、神社の祭事参加、近隣のぶどう狩りに出掛ける等行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 家族の要望に応じた受診対応をしている。 | 近所の協力医ならば職員が付き添えるので、便宜性や安心面からほとんどの利用者がかかりつけ医を協力医に変更している。従来のかかりつけ医を継続する利用者もいるが、送迎は家族や介護タクシーに委ねている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 変化があった場合は、かかりつけ医、又は提携医療機関を受診、相談している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時情報提供を行い、入院中も家族・ドクターを含めたカンファレンスを実施している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時にターミナルについて家族に説明している。 | 看取り対応をしてくれる医療機関が近くにないため、看取りはしない方針である。重度化が進んだ際には家族と医師を交えて話し合い、家族が納得する結論を導き出したいと考えているが、現状ではそうした方針を文書化していない。 | 最高齢の利用者の家族から、今後に不安に感じるとの意見があったこと等も踏まえ、重度化に際しての事業所の方針を記した文書作成を期待したい。また、それを家族に説明した上で、同意書を取るよう期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応については、マニュアルを基に勉強会をしているが実践的な訓練は出来ていないので、外部研修を含めて今後の課題としていきたい。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災や災害を想定した避難訓練の実施に、地域の消防団・消防署・近隣住民の協力体制を築いている。随時、新人スタッフを対象に火災避難訓練を行い、消火器の使用方法、火災通報等を把握するよう指導している。 | 消防署と消防団の協力を得て、夜間想定避難訓練を実際に夜間に実施する等、積極的な対策をとっている。昨年指摘した消火器の設置場所は今回、きちんと把握できていたが、緊急通報装置の認識やその操作方法の熟知には至っていない。 | 避難訓練時には、自分の担当以外の作業を確認する機会を設けたり、訓練時だけでなく、日頃から認識を強化する対策を期待したい。また、地震に備えた、家具の倒壊防止等の対策の検討も期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「ありがとう」の感謝の気持ちを大切に呼びかけていた呼び方で声掛けしアットホームな雰囲気でも過ごしていただけるよう支援している。個人情報を含む書類は事務所の施錠できる保管庫で管理している。 | どの職員も利用者と目線を合わせ、笑顔で対応していた。管理者はトイレ介助は他の人から見えないように戸を閉めること、居室へは必ずノックしてから入ることを職員にも注意している。紙パンツやパッドが利用者からも良く見える厨房カウンターに名前付きで置かれている。 | 職員の作業効率面だけでなく、利用者や家族が不快に感じないように、紙パンツやパッド類には目隠しなどの対策を期待したい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活を送る上で、必要な事(調理・洗濯たたみ等)を皆でしていく中で得意分野に参加し、自ら取り組みができるよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一応は皆さんに同じように声掛けはするが、個人を尊重した強制しないケア(若い頃の思い出を引き出す会話、等)を心掛けて支援するようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 一緒に入浴準備をし、自分で着る洋服等を選んでいただいたり、起床時や入浴後等、鏡を見ながら身だしなみを整えている。 本人の希望により理容店を利用している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事作りをする際、出来る方・したい方にはスタッフと一緒にキッチンに入り相談しながら食事を作っている。片付けも同様になっている。 個人の好みを把握し楽しく、美味しく食事をしていただけるよう心掛けている。 | 一部の利用者が食事作りに参加したり、下膳や食器洗い、片づけを手伝っている。必ず職員が検食し、利用者の反応を含めて記録するが、献立や食事の質向上に役立っている。朝食は5～9時の好きな時間に食べられる。昼食は職員も一緒にテーブルを囲む。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 月1回の体重測定の実施。体調及び個々に合わせたメニューで食事提供している。 個々に合わせ残食チェックや水分量をチェックし記録している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを実施し毎晩義歯洗浄剤を使用している。 必要な入居者の方は月1回、歯科の定期検診を実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄サインの把握と排泄頻度をチェックシートに記入し自立に向けた支援ができるようにしている。 | 利用者ごとに異なる、わずかな排泄のサインを見逃さず、さりげなくトイレ誘導している。昼夜ともに、おむつ使用者はいない。夜間も「失敗すると気持ち悪いだらう」という考え方で、一定の時間に起こし、誘導している。トイレはいつも、とてもきれいである。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 個々に合わせた運動の実施・水分量の把握。排便状況に応じて牛乳・ヨーグルト・果物を提供し自然排便出来るよう支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴前のバイタル確認。 コミュニケーションを通して気持ち良く入浴して頂けるような環境設定をしている。 入浴前後の水分補給の実施。 | 一日おきの入浴を基本としている。お風呂好きの人が多く、我先にという状態なので、比較的午前中の早い時間に入浴は済んでいる。1対1になることで出る、利用者の本音を聞いたり、昔話に付き合っ、寛いでもらう。浴室も更衣室も、きれいで衛生的である。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入所前の生活スタイルの把握。休みたい時は居室や畳コーナーで休んでいただいている。 声掛け確認にて居室内の温度調節の実施。夜間安眠ができるよう日中2時間以上休まれている方には離床を促す。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 毎食後、名前を確認し服薬確認チェックしている。 状態の変化時、かかりつけ医に相談し服薬方法を確認している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | カラオケ等を利用し歌を唄ったり、懐かしい映画のDVDを観て楽しむ。 一人一人に出来る事をお願いし役割を持っているだけよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 体調・天候を考慮し一人一人、月1回は買い物やドライブ等本人の希望に応じて外出できるよう家族と連携して支援している。 | 気候が良い時は、歩道を散歩し、近くの小学校まで歩く。車での外出は、できるだけ全利用者が平等になるよう、記録を取り、偏りが出ないように配慮している。近場のスーパーで、自分でおやつを買うのを楽しみにしている。現在、事業所の拡張工事のため、庭や菜園はなくなっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入所時に本人と家族で話し合い、お金の所持を遠慮してもらっている。必要時には家族と相談の上、施設で立て替えて買い物をして貰い、後日請求するという形で了解を得て行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の要望に沿って、家族に電話ができるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 畳コーナーにテーブルを置き足を伸ばしながら、お茶を飲んだり、冬場にはこたつを出し談話する等している。南窓からは電車や登下校の様子を見ることが出来る。居室担当を決め清潔で過ごしやすい空間作りを支援している。 | 南向きの窓からは陽光が降り注ぎ、整理整頓の行き届いたリビングを照らしている。壁面装飾は最低限に抑え、落ち着いた空間にしている。清掃は午前、午後1時間ずつ、手分けしながら皆で実施する。一部の利用者はモップかけや掃き掃除を手伝う。サッシのレールや高い場所にある棚の縁まで、本当にきれいな状態が維持されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 入居者同士が居室を訪問しあいテレビを見たり談笑している。リビングで過ごしたい方、テレビを見たい方等、居室で過ごされる方等、思い思いに過ごせるよう支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時には、本人や家族と相談しながら居室内の配置(ペット・タンス等)をし、落ち着いて過ごせるよう支援している。月ごとに居室担当を決め環境整備・衣服の整理等、本人と相談しながら行っている。 | たんすやベッドなど、各人が思い思いの家具を持ち込んでいる。利用者ごとに担当する職員を決め、衣類の整理整頓などを手伝っている。リビングと同時に居室も掃除し、可能な人には手伝ってもらう。月1回の布団干しが唯一の決まりだが、居室の掃除も行き届いている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 毎月の実施モニタリング表を作成し、支援内容の項目をチェックし、安全にできることをしてもらい自立した生活が送れるよう声掛け支援している。 | | |